

## 1 人口動態統計

人口動態調査は、統計法による基幹統計調査として実施されており、「戸籍法」及び「死産の届け出に関する規程」に基づき、各市区町村長に届け出のあった出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の5種類の届出書等から、人口動態調査令により各調査票を作成する方法で行われています。

人口動態調査は国勢調査と並び、我が国の主要な統計の一つであり、各種行政施策の基礎資料として極めて重要な役割を果たしています。

### (1) 全道概況

平成27年の北海道の人口動態統計は、平成26年と比較して、死亡件数は増加し、出生・死産件数は減少しています。婚姻件数は減少し、離婚件数は増加しています。

出生数は、平成7年に大正・昭和・平成をとおして初めて5万人を割り込みましたが、その後も減少傾向が続き、平成27年は36,695人と前年より363人減少しました。

死亡数は649人増加して60,667人となり、出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、マイナス23,972人で、初めて自然減となった平成15年に続いて13年連続の自然減となりました。(表1)

表1 人口動態統計の概況

	実 数				比 率		平均発生間隔	
	27年	26年	増減	増減率	27年	26年	27年	26年
出生	36 695	37 058	- 363	-1.0	6.8	6.9	日 時分秒	日 時分秒
死亡	60 667	60 018	649	1.1	11.3	11.2	0:14:19	0:14:11
乳児死亡	73	81	12	19.7	2.0	1.6	0:08:40	0:08:45
新生児死亡	36	25	11	44.0	1.0	0.9	5: 0:00:00	5: 23:36:24
周産期死亡	152	148	4	2.7	4.1	4.0	10: 3:20:00	14: 14:24:00
妊娠満22週以後の死産	126	123	3	2.4	3.4	3.3	2: 9:37:54	2: 11:11:21
早期新生児死亡	26	25	1	4.0	0.7	0.9	2: 21:31:26	2: 23:13:10
死産	1 057	1 101	- 44	-4.0	28.0	28.9	14: 0:55:23	14: 14:24:00
自然死産	420	460	- 40	-8.7	11.1	12.1	8:17:15	7:57:23
人工死産	637	641	- 4	-0.6	16.9	16.8	20:51:26	19:02:37
婚姻	25 465	26 018	- 553	-2.1	4.8	4.8	13:42:51	13:39:58
離婚	11 211	11 003	208	1.9	2.09	2.04	0:20:38	0:20:12
							0:46:53	0:47:46

#### 注1) 比率

乳児・新生児死亡率…出生千対、周産期死亡率…(出生+妊娠満22週以後の死産)千対  
死産率…出産(出生+死産)千対  
その他…人口千対

2) 率算出に用いた人口は、各年10月1日現在の推計日本人人口(総務省統計局) 27年は、国勢調査日本人人口。

### (2) 二次保健医療福祉圏別概況

二次保健医療福祉圏別に各事象の比率をみると、出生では根室圏が8.1と最も高く、東胆振圏の7.6と続き、最低は南檜山圏の4.7となっています。

死亡では北空知圏が16.7と最も高く、南檜山圏16.4、中空知圏16.2、北渡島檜山圏15.4と続き、最低は札幌圏の9.1となっており、乳児死亡では根室圏が6.5と最も高く、発生件数の無い圏域は南檜山圏、北渡島檜山圏、北空知圏、日高圏、上川北部圏、富良野圏、留萌圏となっています。

死産では、北渡島檜山圏が45.5と最も高く、宗谷圏35.1と続き、最低は富良野圏13.2となっています。

婚姻では、札幌圏・根室圏が5.5と最も高く、東胆振圏5.1と続き、最低は南檜山圏の3.2となっています。

また、離婚では根室圏が2.41と最も高く、最低は北空知圏の1.47となっています。(表2)

表2 二次保健医療福祉圏の人口動態

二次保健 医療福祉圏	出生	死亡	乳児死亡 (再掲)	新生児 死亡 (再掲)	周産期死亡			死産	婚姻	離婚
					総数	妊娠満22週 以後の死産	生後1週 未満死亡			
全通計	36 695	60 667	73	36	152	126	26	1 057	25 465	11 211
南添島	2 323	5 308	3	2	10	9	1	31	1 588	819
南檜山	112	389	-	-	1	1	-	4	77	48
北添島檜山	210	571	-	-	1	1	-	10	149	75
札幌	17 313	21 463	35	14	75	63	12	508	12 511	5 339
後志	1 158	3 278	2	1	6	6	-	41	826	366
南空知	830	2 470	1	-	6	6	-	30	588	250
中空知	555	1 763	1	1	4	3	1	12	419	178
北空知	183	544	-	-	-	-	-	3	106	48
西胆振	1 181	2 808	2	1	2	1	1	27	785	349
東胆振	1 611	2 361	3	1	3	3	-	49	1 085	467
日高	494	939	-	-	4	4	-	13	286	123
上川中部	2 051	4 712	3	1	8	7	1	72	1 736	836
上川北部	413	901	-	-	2	2	-	9	273	103
富良野	300	551	-	-	1	1	-	4	189	75
留萌	270	708	-	-	1	1	-	8	172	75
宗谷	467	875	1	-	1	1	-	17	324	116
北網	1 483	2 839	4	2	4	2	2	40	978	420
遠紋	422	1 028	1	1	1	-	1	12	278	152
十勝	2 552	3 784	6	4	11	8	3	58	1 597	685
釧路	1 551	2 841	7	6	7	5	2	50	1 095	504
根室	616	842	4	2	4	2	2	8	403	183
			比		率					
全通計	6.8	11.3	2.0	1.0	4.1	3.4	0.7	28.0	4.8	2.09
南添島	6.1	14.0	1.3	0.9	4.3	3.9	0.4	33.7	4.2	2.15
南檜山	4.7	16.4	-	-	8.8	8.8	-	34.5	3.2	2.02
北添島檜山	5.7	15.4	-	-	4.7	4.7	-	45.5	4.0	2.02
札幌	7.3	9.1	2.0	0.8	4.3	3.6	0.7	28.5	5.3	2.26
後志	5.4	15.3	1.7	0.9	5.2	5.2	-	34.2	3.9	1.71
南空知	5.0	14.9	1.2	-	7.2	7.2	-	34.9	3.5	1.50
中空知	5.1	16.2	1.8	1.8	7.2	5.4	1.8	21.2	3.9	1.64
北空知	5.6	16.7	-	-	-	-	-	16.1	3.3	1.47
西胆振	6.2	13.8	1.7	0.8	1.7	0.8	0.8	22.4	4.2	1.85
東胆振	7.6	11.2	1.9	0.6	1.9	1.9	-	29.5	5.1	2.21
日高	7.2	13.6	-	-	8.0	8.0	-	25.6	4.2	1.79
上川中部	6.7	12.0	1.1	0.4	3.0	2.6	0.4	26.4	4.4	2.13
上川北部	6.2	13.6	-	-	4.8	4.8	-	21.3	4.1	1.55
富良野	7.1	13.0	-	-	3.3	3.3	-	13.2	4.5	1.77
留萌	5.7	14.8	-	-	3.7	3.7	-	28.8	3.6	1.57
宗谷	7.0	13.1	2.1	-	2.1	2.1	-	35.1	4.9	1.74
北網	6.7	11.9	2.7	1.3	2.7	1.3	1.3	26.3	4.4	1.89
遠紋	6.0	14.7	2.4	2.4	-	-	2.4	27.6	4.0	2.17
十勝	7.5	11.1	2.4	1.6	4.3	3.1	1.2	22.2	4.7	2.00
釧路	6.6	12.5	4.5	3.0	4.5	3.2	1.3	31.2	4.6	2.14
根室	8.1	11.1	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	14.4	5.3	2.41
			対		合					
全通計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
南添島	6.3	8.7	4.1	5.6	6.6	7.1	3.8	7.7	6.2	7.3
南檜山	0.3	0.6	-	-	0.7	0.8	-	0.4	0.3	0.4
北添島檜山	0.6	0.8	-	-	0.7	0.8	-	0.9	0.8	0.7
札幌	47.2	35.4	47.9	38.9	48.3	50.0	46.2	48.1	49.1	47.6
後志	3.2	5.4	2.7	2.8	3.9	4.8	-	3.9	3.2	3.3
南空知	2.3	4.1	1.4	-	3.9	4.8	-	2.8	2.3	2.2
中空知	1.5	2.9	1.4	2.8	2.6	2.4	3.8	1.1	1.6	1.6
北空知	0.5	0.9	-	-	-	-	-	0.3	0.4	0.4
西胆振	3.2	4.3	2.7	2.8	1.3	0.8	3.8	2.6	3.1	3.1
東胆振	4.4	3.9	4.1	2.8	2.0	2.4	-	4.6	4.3	4.2
日高	1.3	1.5	-	-	2.6	3.2	-	1.2	1.1	1.1
上川中部	7.2	7.8	4.1	2.8	5.3	5.6	3.8	6.8	6.8	7.5
上川北部	1.1	1.5	-	-	1.3	1.6	-	0.9	1.1	0.9
富良野	0.8	0.9	-	-	0.7	0.8	-	0.4	0.7	0.7
留萌	0.7	1.2	-	-	0.7	0.8	-	0.8	0.7	0.7
宗谷	1.3	1.4	1.4	-	0.7	0.8	-	1.6	1.3	1.0
北網	4.0	4.3	5.5	5.6	2.6	1.6	7.7	3.8	3.8	3.7
遠紋	1.2	1.7	1.4	2.8	0.7	-	3.8	1.1	1.1	1.4
十勝	7.0	6.2	8.2	11.1	7.2	6.3	11.5	5.5	6.3	6.1
釧路	4.2	4.8	9.6	16.7	4.6	4.0	7.7	4.7	4.3	4.5
根室	1.7	1.4	5.5	5.6	2.6	1.6	7.7	0.9	1.6	1.6

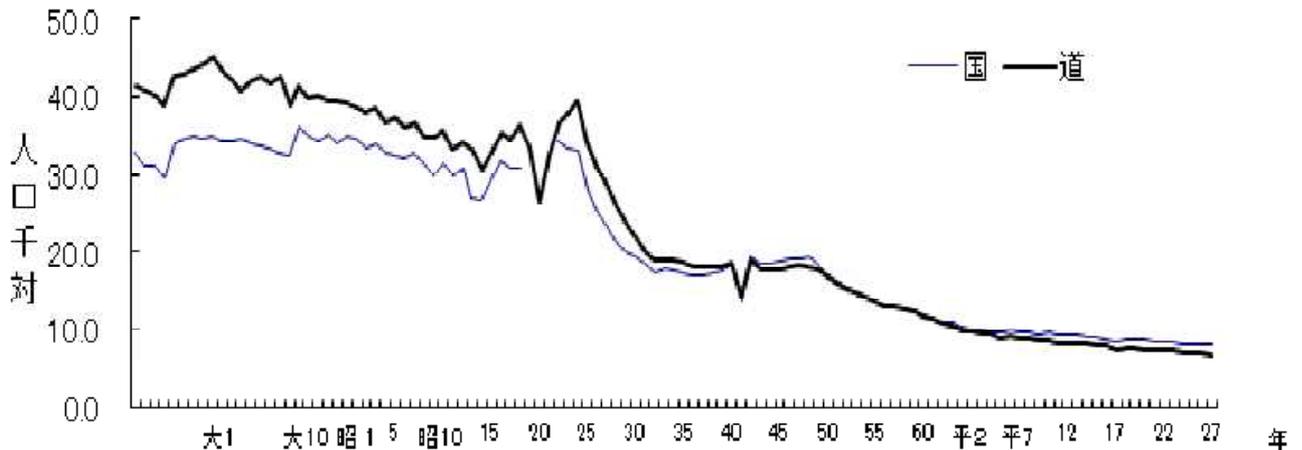
(3) 出生

平成27年の出生数は36,695人で、前年の37,058人より363人減少し、出生率（人口千対）は6.8でした。性別出生数は男18,838人、女17,857人となっています。

出生率の年次推移をみると、第一次ベビーブームの昭和24年の出生率は戦後最高の39.4を記録しています。その後急激に減少し、昭和32年には19.0まで減少しました。以後ほぼ横ばい状態で推移していましたが、昭和50年以降再び減少傾向に転じました。平成27年の出生率は6.8で、過去最低になりました。

また、全国値の8.0と比較して1.2下回っています。（図1）

図1 出生率の年次推移(人口千対)



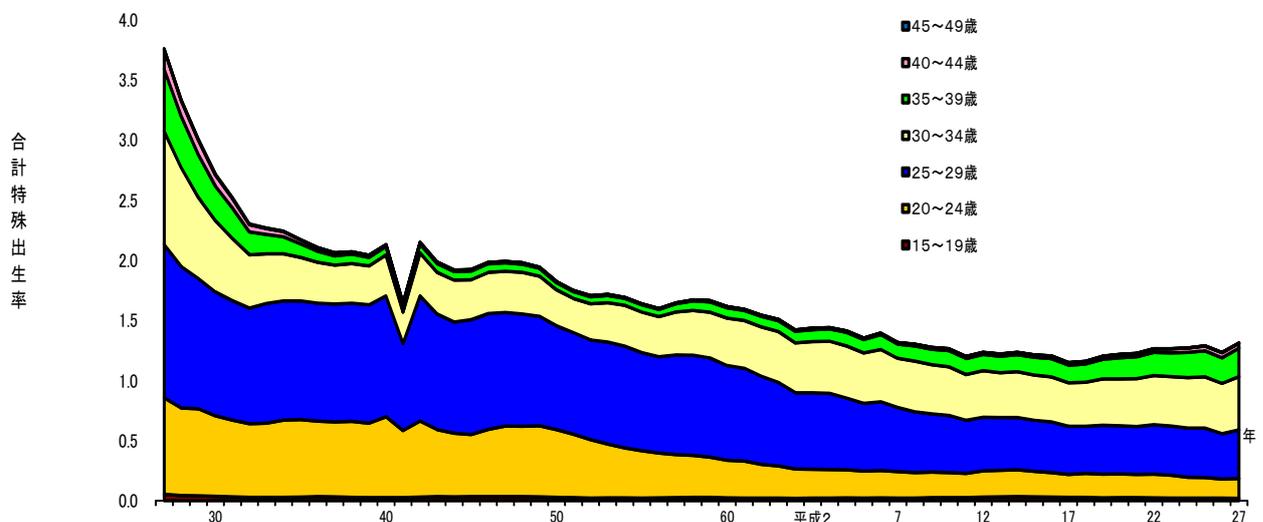
(4) 合計特殊出生率

合計特殊出生率の推移をみると、昭和25年は4.56と高い率でしたが、その後急激に低下し、昭和30年には3.0を割り、昭和30～40年代は「ひのえうま」（昭和41年）の特殊な動きを除けば2.0前後の水準で推移していましたが、昭和50年以降は再び低下傾向が続いており、平成17年には、1.15と過去最低値となりました。

母の年齢階級別出生率でも、各年齢階級とも昭和25年から急激に低下しています。

昭和40年代になっても各年齢階級とも一定の水準で推移していましたが、昭和50年からは30歳代で上昇しているものの30歳未満の年齢階級では低下し、年齢階級毎に合計した合計特殊出生率は低下傾向をたどっています。（図2）

図2 合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別)



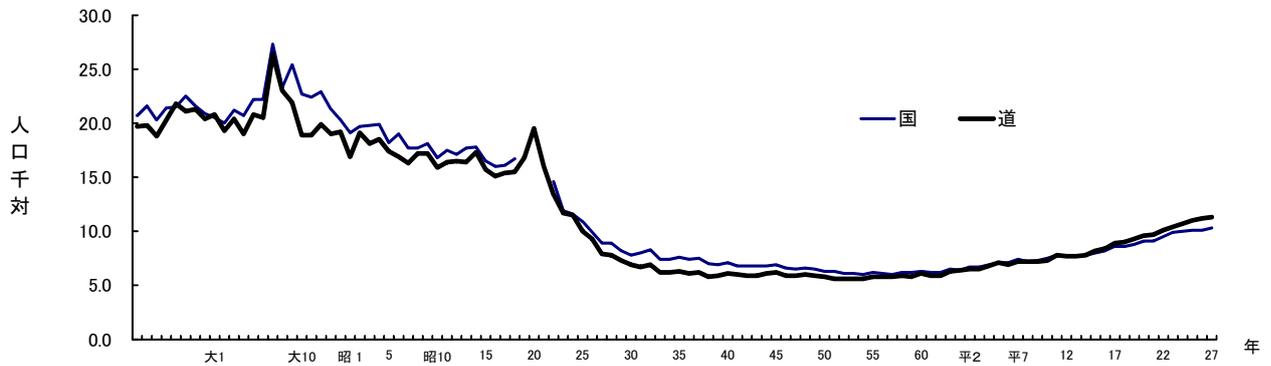
(5) 死亡

平成27年の死亡数は60,667人で前年の60,018人より649人増加し、死亡率（人口千対）は11.3で前年より0.1増加しました。男の死亡数は31,391人で前年の31,333人より58人増加し、女の死亡数は29,276人で前年の28,685人より591人増加しました。

死亡率（人口千対）の年次推移でみると、戦後急速に低下し、昭和30年代半ばから緩やかな低下傾向になり、昭和53年前後は5.6と最低の死亡率を記録したものの、その後は上昇傾向に転じています。

(図3)

図3 死亡率の年次推移(人口千対)



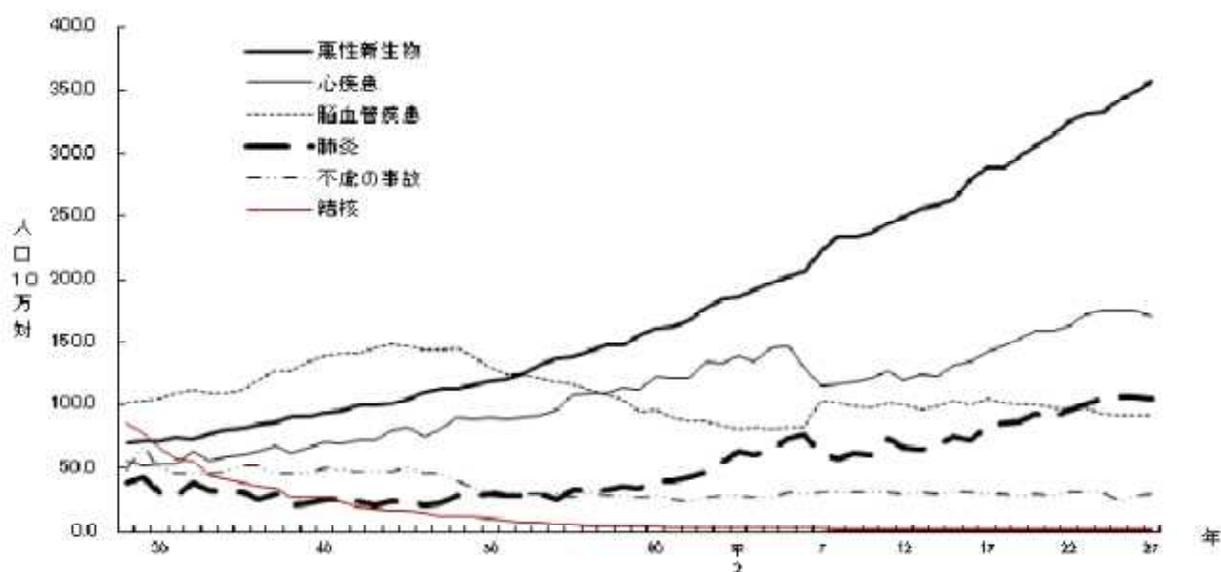
死因順位は、第1位は悪性新生物で19,098人・死亡率（人口10万対）356.3、第2位は心疾患で9,156人・死亡率170.8、第3位は肺炎で5,641人・死亡率105.2となっており、死亡総数に占める割合は、悪性新生物31.5%、心疾患15.1%、肺炎9.6%で、この3大死因が全体の6割近くを占めています。

(表3、図4、図5)

表3 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位・性別

死 因	平 成 2 7 年										
	総数		男		女		全国総数				
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 死 因		60 667	1,131.8		31 391	1241.6		29 276	1033.8	1 290 444	1029.7
悪性新生物	1	19 098	356.3	1	11 072	437.9	1	8 026	283.4	370 346	295.5
心 疾 患	2	9 156	170.8	2	4 206	166.4	2	4 950	174.8	196 113	156.5
肺 炎	3	5 641	105.2	3	3 167	125.3	4	2 474	87.4	120 953	96.5
脳血管疾患	4	4 875	91.0	4	2 270	89.8	3	2 605	92.0	111 973	89.4
老 衰	5	3 034	56.6	6	769	30.4	5	2 265	80.0	84 810	67.7
不慮の事故	6	1 526	28.5	5	911	36.0	7	615	21.7	38 306	30.6
腎 不 全	7	1 516	28.3	7	748	29.6	6	768	27.1	24 560	19.6
自 殺	8	1 045	19.5	8	714	28.2	11	331	11.7	23 152	18.5
大動脈瘤及び解離	9	824	15.4	11	385	15.2	8	439	15.5	16 887	13.5
慢性閉塞性肺疾患	10	729	13.6	9	571	22.6	18	158	5.6	15 756	12.6

図4 主要死因の死亡率年次推移(人口10万対)



死因順位の第1位を占めている悪性新生物の部位別死亡率を年次推移でみると、男女ともに「肺」、「大腸」は上昇傾向を示しています。

また女は、「乳房」、「子宮」も上昇傾向を示しており、その他は、横ばい傾向となっています。(図6、図7)

図5 平成27年主要死因の割合

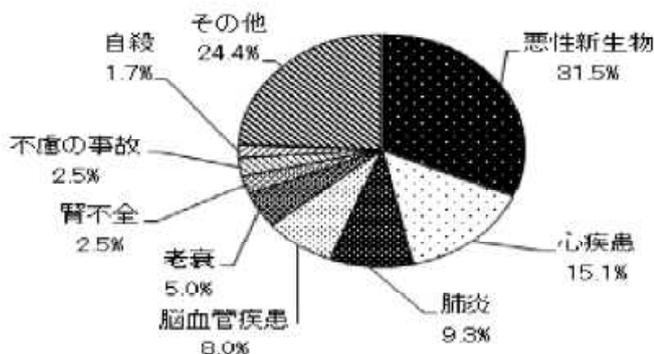


図6 悪性新生物の主な部位別死亡率(男)

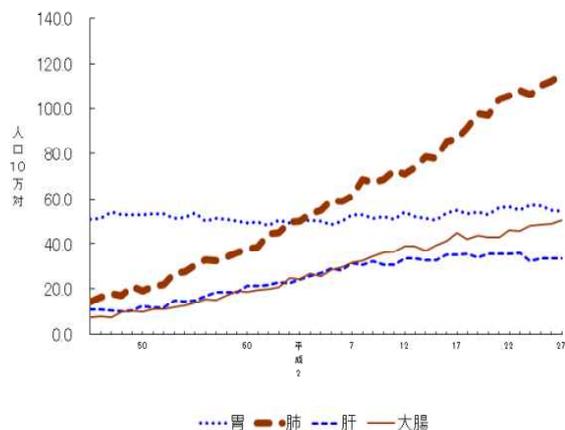
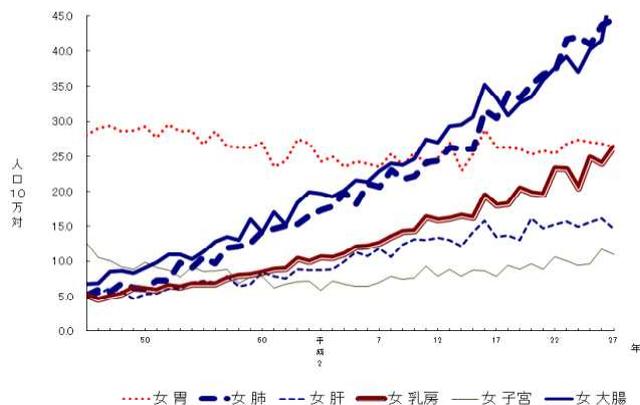


図7 悪性新生物の主な部位別死亡率(女)



(6) 乳児死亡

平成27年の乳児死亡（生後1年未満の死亡）は73人で前年より12人増加しており、乳児死亡率（出生千対）も2.0で前年より0.4増加しました。死亡総数に占める割合は0.1%になっています。

乳児死亡率は昭和22年には82.8でしたが、その後一貫して低下傾向をたどり、昭和52年には10.0を割り、平成9年から3.0前後で推移し、平成20年から2.0台前半となっています。

(7) 死産

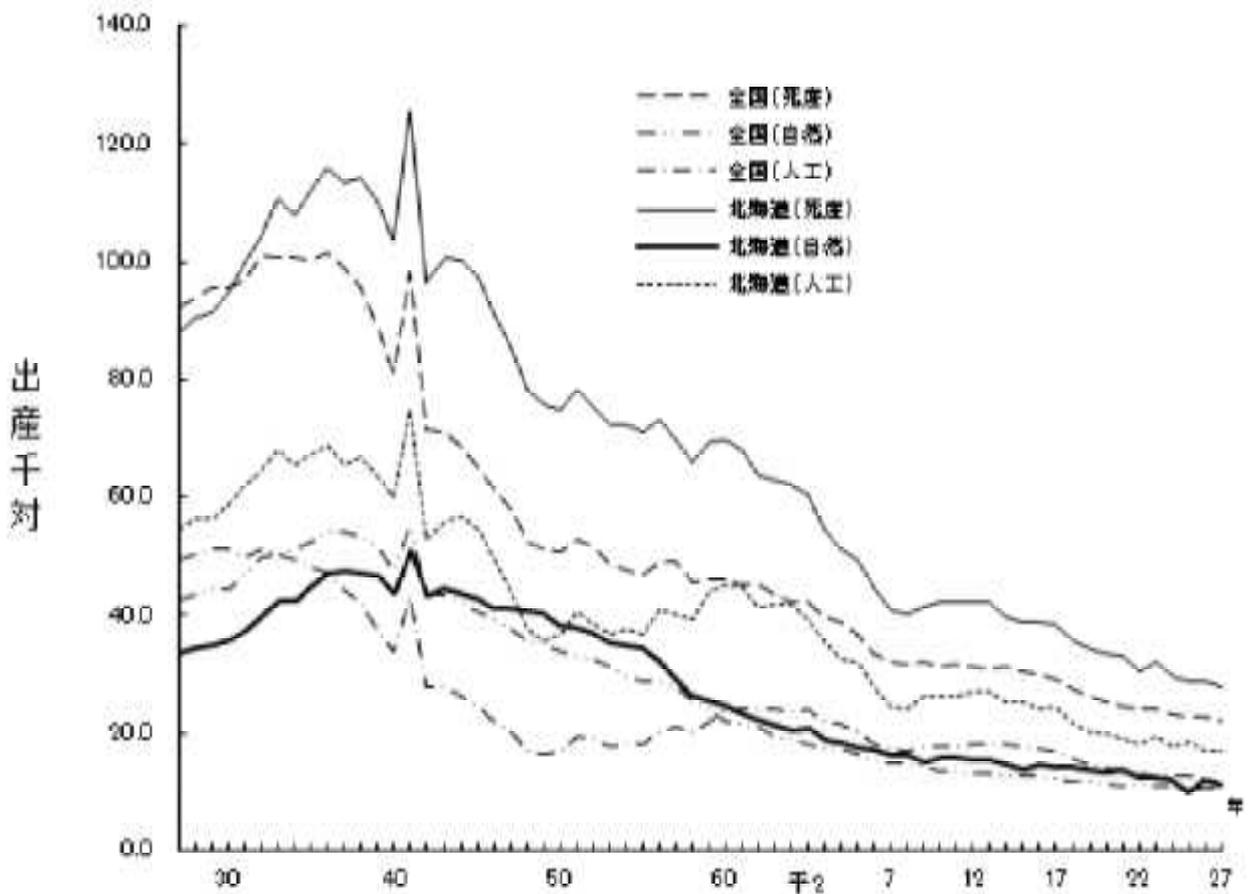
平成27年の死産数は1,057胎で前年の1,101胎より44胎減少し、死産率（出産千対）は28.0で前年より0.9減少しました。

自然死産数は420胎で前年460胎より40胎減少し、自然死産率は11.1で前年より1.0減少しました。

人工死産数は637胎で前年の641胎より4胎減少し、人工死産率は16.9で前年より0.1増加しました。

(図8)

図8 死産率(出産千対)



(8) 周産期死亡

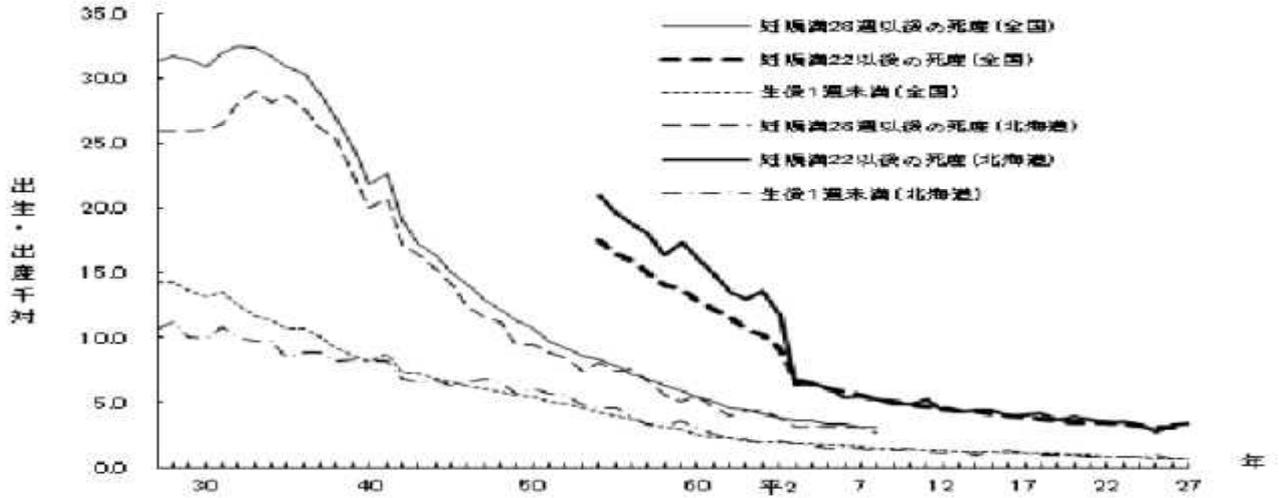
平成27年の周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数は152で前年の148より4増加し、周産期死亡率（出産千対）は4.1で前年より0.1増加しました。

妊娠満22週以後の死産数は126胎で前年より3胎増加し、妊娠満22週以後の死産率（出産千対）は3.4で前年より0.1増加しています。

なお、早期新生児死亡数は26人で前年より1胎増加しており、早期新生児死亡率（出生千対）は0.7で前年から増減していません。(図9)

(\*周産期死亡の妊娠週数は、WHOの勧告に基づき平成7年から満28週から満22週に改定されています。)

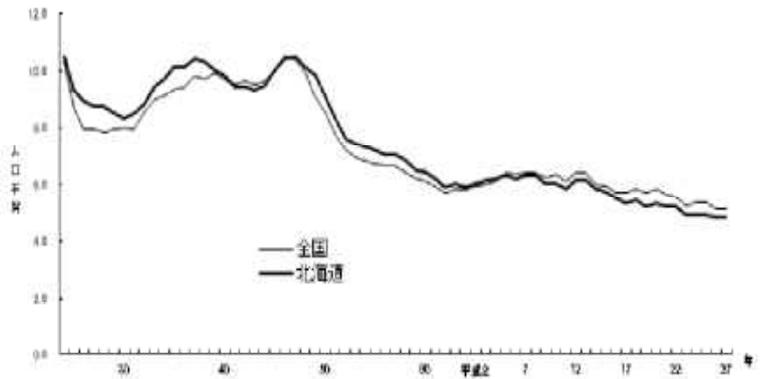
図9 周産期死亡年次推移



(9) 婚姻

平成27年の婚姻件数は25,465件で、前年の26,018件より553件減少しました。婚姻率の年次推移をみると、昭和20年代前半は10～11と高率でしたが、以後、急激に低下し、昭和30年には8.3まで下がりました。その後上昇に転じ、昭和35～49年では1.0前後で推移していましたが、昭和50年から再び低下傾向が続いていました。平成27年は4.8と前年から増減していません。(図10)

図10 婚姻率(人口千対)の年次推移



平均初婚年齢をみると、夫30.7歳、妻29.3歳となって、第二次婚姻ブームの昭和47年の初婚年齢(夫26.0歳、妻23.8歳)と比べて夫は4.7歳、妻は5.5歳高くなっています。(図11、図12)

図11 平均初婚年齢の年次推移

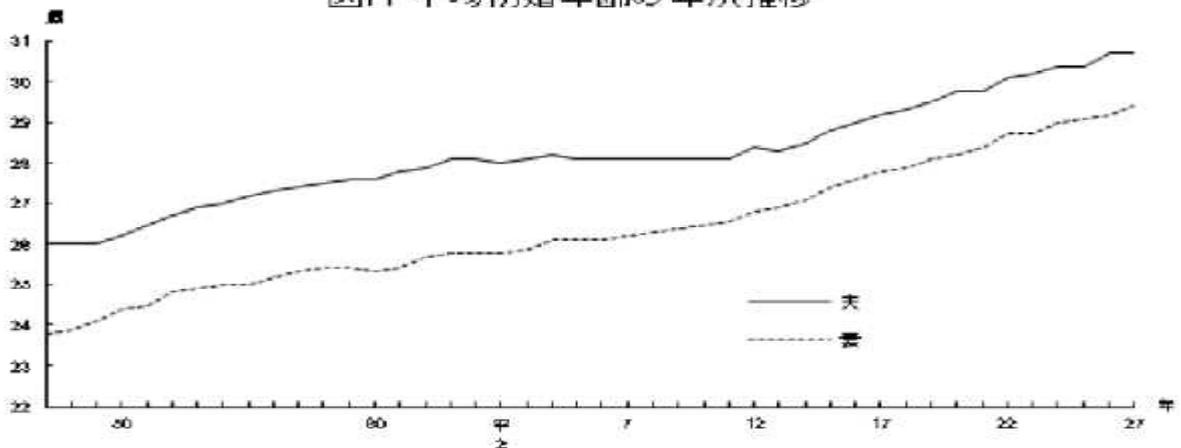
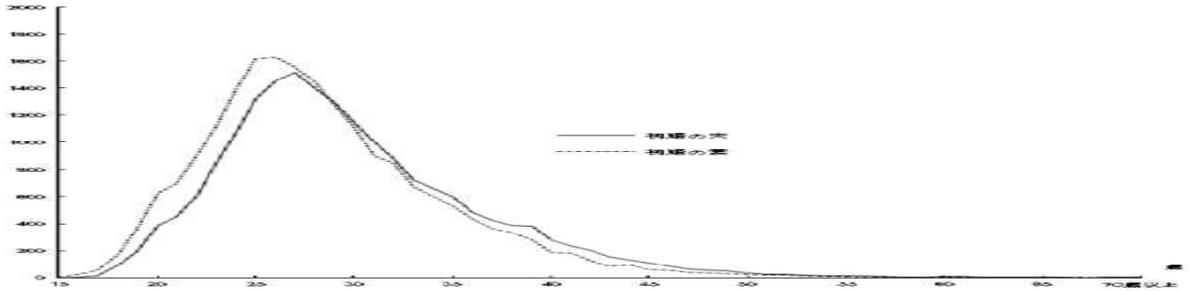


図12 夫初婚・妻初婚の年齢分布



(10) 離婚

平成27年の離婚件数は11,211件で前年の11,003件より208件増加しています。

離婚率（人口千対）は2.09で前年の2.04を0.05上回っています。

離婚率の年次推移をみると、戦後から昭和30年代まではほぼ横ばいで推移しましたが、昭和40年代から徐々に上昇し、昭和59年には2.33とそれまでの最高を記録しています。

その後、低下傾向にありましたが、平成3年から再び上昇し、平成14年には2.77と史上最高値を記録しました。（図13）

同居期間別の離婚割合では、5年～10年未満が最も多く、また年齢階級別でみると、30歳代が高い割合を占めています。（図14、図15）

図13 離婚率（人口千対）の年次推移

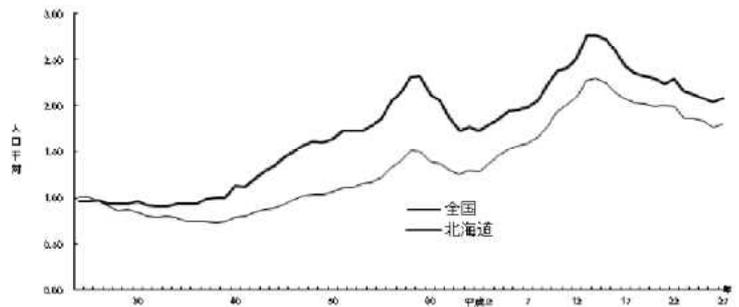


図14 夫妻の年齢階級別離婚件数割合

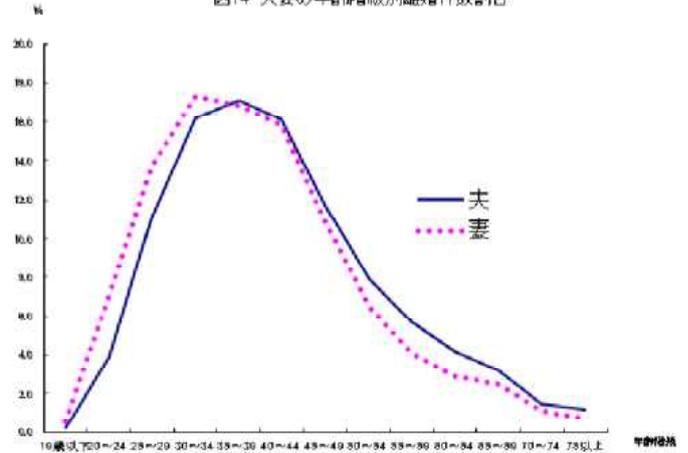


図15 同居期間別離婚件数割合の年次推移

